

〈実践ノート〉

「総合的な学習の時間」を中心としたESDの推進と 授業改善による教育効果の一考察

松尾 廣文*

Consideration of educational effects by promoting ESD and
improving lessons centered on comprehensive learning period

Hirofumi Matsuo

I ESDの役割について

Education for Sustainable Development (以下ESD)の歴史は古く、1987年国連に設置された「環境と開発に関する世界委員会」において「将来の世代の欲求を満たしつつ、現在の世代の欲求も満足させるような開発」と定義をされている。

ESDの推進は、世界各国が果たすべき未来への重要な約束事であり、「持続可能な開発のための10年」(「持続可能な開発に関する世界首脳会議」2002)を提唱した日本の役割は極めて大きい。

その後、2015年9月の持続可能な開発サミットでSustainable Development Goals (以下SDGs)が採択された。

SDGsターゲット4.7は、「2030年までに、持続可能な開発のための教育及び持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等、平和及び非暴力的文化の推進、世界的・シチズンシップ、文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して、全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。」となっている。

SDGsの達成のためには、教育による持続可能な社会を担う人材の育成が必須なのである。

II ESDと「総合的な学習の時間」

2017年3月公示の学習指導要領では、次の部分

に「持続可能な社会の創り手」に関連する記載が見られる。

【前文(幼・小・中)】

「これからの学校(幼稚園)には、(中略)一人一人の生徒(幼児・児童)が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。このために必要な教育の在り方を具体化するのが、各学校(幼稚園)において教育の内容等を組織的かつ計画的に組み立てた教育課程である。」

【総則(小・中)】「第1 小学校(中学校)教育の基本と教育課程の役割3」

「2の(1)から(3)までに掲げる事項の実現を図り、豊かな創造性を備え持続可能な社会の創り手となることが期待される児童に、生きる力を育むことを目指すに当たっては、学校教育全体並びに各教科、道徳科、総合的な学習の時間及び特別活動の指導を通して、どのような資質・能力の育成を目指すのかを明確にしなが、教育活動の充実を図るものとする。」

その他、中学校社会や理科、技術・家庭、小中学校特別の教科 道徳、小学校家庭の学習指導要領にも「持続可能な社会の創り手」の記述がある。

* 前大田区立大森第六中学校長 大田区教育委員会指導課

では、ESDの課題はどのようなものであり、どの教科が中核を担うべきであろうか。

「我が国における『国連持続可能な開発のための教育の10年』実施計画」（「国連持続可能な開発のための10年」関係省庁連絡会議2006）では、持続可能な社会を築く上での課題として、「世代間の公平」「地域間の公平」「男女間の公平」「社会的寛容」「貧困削減」「環境の保全と回復」「天然資源の保全」「公正で平和な社会」が示されている。

また、「我が国における『国連持続可能な開発のための教育の10年』実施計画」（前掲）の「3. ESD実施の指針」（3）教育の内容」では、「学校においては、各教科や総合的な学習の時間等学校教育活動全体を通じて、ESDに関して学習することが重要になります。（中略）特に総合的な学習の時間では、各教科等で学んだことをいかして、自ら調べたり、考えをまとめ発表したりするなど、ESDに関する学習を一層深めることが可能です。」と「総合的な学習の時間」におけるESDの役割を重視する。続けて、「このような学習を通じて、地域づくりに参画する態度を育成することが大切です。さらに、社会教育や地域活動においても、個別の課題のみならず他の分野とつなげ、関わり合うことにより、ESDへと発展させることが可能となります。」と「総合的な学習の時間」と教科相互の関連、体験活動への発展について言及している。

Ⅲ 「総合的な学習の時間」のテーマに関して

「総合的な学習の時間」でのESDの推進に関する各校の実態はどのようなものであろうか。

試みに筆者が勤務する大田区教育委員会が設置する中学校28校の「総合的な学習の時間」のテーマを検討したところ、以下のような特徴がみられた。

「総合的な学習の時間」のテーマの主たるものとして、日本の伝統文化に関する学習が多くの学校であげられている。3年生の修学旅行で京阪神を訪れる学校は28校中27校に及び、事前と事後で歴史的建造物や美術等に関する調べ学習を行っているからである。

また、全ての学校で「進路学習」として1年時で職業インタビュー、2年時で職場体験、上級学校訪問、3年時では進路選択という一連の「総合的な学

習の時間」での調べ学習を行っている。

「環境学習」としては、1年時の移動教室をあげている学校が多い。大田区では、長野県での宿泊行事を設定しているが、事前の調べ学習を「総合的な学習の時間」として設定しているのである。

その他、2021年度までのものとしては、オリンピック・パラリンピックに関する学習も殆どの学校で行われていた。

中学校28校の中で「持続可能な社会（ESD）」やSDGsを課題に掲げた学校は4校であった。その内2校はユネスコスクールであり、残り2校は海に面した立地の学校であった。

「総合的な学習の時間」でのESDに関する取り組みが増え、区内各校の情報の共有、連携が深まることが望まれる。

Ⅳ 大森第六中学校の取り組み

ユネスコスクールである大田区立大森第六中学校は、経済産業省資源エネルギー庁エネルギー教育モデル校（2017・18）、国立教育政策研究所教育課程研究指定校（2015・16・19・20）、文部科学省委託ESD重点形成事業サステイナブルスクール（2016～）、ユネスコ・パリ本部ASPnet機関包括的アプローチ実践プロジェクト気候変動に関する実践校（2016～）としてESDの実践に取り組んでいる。

大森六中では、敷地内に群生している竹（校歌の歌詞にも唱われている）に準え、「総合的な学習の時間」を「青竹タイム」と名付け「環境学習」、「防災学習」、「国際理解学習」、「平和学習」等の特色ある教育を行っている。

また、当校では、「総合的な学習の時間」をはじめとする各教科の中で、ESDの様々な課題について、生徒が主体的・対話的で深い学びを行うよう、「単元指導過程」を工夫してきた。

生徒が主体性をもって学習に取り組むためには、学習課題そのものが、学びへの興味・関心を高める動機付けを有したものでなければならない。

大森第六中学校校内研修の指導を2011年以来行ってきた成田喜一郎は、主体的・対話的で深い学びの条件の一つとして「単元を貫く問い（Unit Question）」や「本時のねらいにつながる問い（Content Question）」だけではなく、本単元や教科

を超えた「本質的で根源的な問い (Essential Questions)」を生徒に提示することを推奨している (今井・成田 2016)。

SDGs が投げかける問題や課題は、多くは新たな社会の構築や産業構造改革、市民生活の行動様式の変容等、現在のシステムの変革、再構築が必要なものであり、生徒にとって、既習知識では解決できない将来にわたっての問題解決を提起するものである。

単元指導過程の中に、成田の提唱する「Essential Questions」を位置づけることで、生徒は、SDGs の達成に向けた主体的、能動的な学習態度を形成する。

「Essential Questions」の一例

- ・10年後のよりよい未来とは？ (総合)
- ・平和な社会を作るには？ (総合)
- ・食品ロスをなくすには？ (総合・家庭)
- ・安定したクリーンエネルギー供給とは？ (理科)
- ・少子化をストップする政策とは？ (公民)
- ・気候変動に立ち向かうには？ (理科・総合)
- ・What can we do for the earth?(英語)
- ・正義と何か？ - 走れメロスより - (国語)

単元の中に協働学習を設定することで、生徒たちの、相互作用が活性化され、より高い段階の思考、深い学びへと到達することが期待できる。

また、3学期に生徒たちは、「総合的な学習の時間」の1年間の学びを冊子「青竹タイム」にまとめるとともに、学習成果発表会も行い、各学年の「総合的な学習の時間」の学びを全生徒、保護者、地域で共有し、学びを深めるようにしている。

V 事例 「総合的な学習の時間」単元名「持続可能なまちづくり (2年)」

次に事例として、大森第六中学校2年生「総合的な学習の時間」の単元名「持続可能なまちづくり」(企画立案：大森第六中学校 柴崎裕子指導教諭、五十嵐文主幹教諭)を報告する。

(1) 単元指導計画

1 ESDにおける目標

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を達成することを目指す。

さらに、持続可能な社会の担い手として、必要な見識・態度を、探究活動と協働学習のなかで培う。

2 大切にしたい概念

多様性・・・より多くの意見や考え方から、自分の未来を想像し、よりよい社会を実現しようとする。

相互性・・・お互いの共同作業から、持続可能な社会づくりを相互作用の観点から目指す。

責任制・・・2年生の「総合的な学習の時間」のテーマ、「責任制を問う」を、様々な角度から体験を通して、学ぶ。

3 本単元の「Essential Questions」

「持続可能なまちの担い手になるために-自分たちにとって10年後のより良い未来とは何だろうか-」

4 主体的学び

少人数の班活動で地域の自治会、消防団の方と一緒に「まちなか点検」を行い、自分たちの住む地域の「強み」、「弱み」を知り、災害に対応できる備えを考える。

5 対話的な学び

気づき、学びを協働でポスターにまとめる。また、班ごとに生徒や地域の方に対する発表を行い、考えの共有化を図るとともに意見交換を経て、考えを深める。

6 深い学び

10年後、20年後の理想とするまちの姿を想像し、持続可能な社会を築くための課題を考え、その解決に向けた行動を身近なことから起こそうとする意欲を養う。

7 単元指導計画

「10年後のよりよい未来とは」

- ①事前テーマ設定 1時間
- ②まちなか点検 2時間
- ③班ごとにマップ作り 2時間
- ④各班の討議「各観点から未来を予想する」
2時間
- ⑤各班討議「未来のまちづくり」 2時間
 - ・現在の状況や改善したい点は何か。
 - ・どのようなまちが理想なのか。
 - ・理想を実現するためには、どうすればよいのか。SDGsから目標を選ぶ。
 - ・自分にできることは何か。
- ⑥班での話し合いとまとめ 1時間
 - ・ポスター作り
- ⑦クラス発表会 1時間



「まちなか点検」ポスター発表



「持続可能なまちづくり」ポスター発表



「まちなか点検」の様子



「まちなか点検」グループ協議

単位 時間	学習内容	主体的活動を促す 手立て	対話的活動 を促す手立て	深い学びを促す手 立て	ESDで育てる力 と態度、評価	SDGs
1	テーマ設定	10年後の理想的なまちを考える。	災害時に強いまちを話し合う。	フィールドワークの結果を予想してみる。	未来を予想する力	
2	まちなか点検	自分の住んでいるまちの「強み」、「弱み」を見つける。	災害時の危険箇所を班で討議し、記録する。	地域の「弱み」を改善する方法を考える。	批判的な思考力 未来を予想する力	
2	マップ作り	地域の未来を想定して考えをまとめる。	班で協力し、地域のマップを使って、危険箇所を話し合う。	起こりうる被害を付箋にまとめマップに貼ったものを、外部へ発信する。	つながりを大切に する態度 積極的に参加する 態度	
2	自分が考える理想のまちとは？	10年後の未来を考える。	他者の意見を聞き、自分の新たな気づきにする。	ICTも使い、現状の問題点、課題を分析する。	未来を予想する力	
2	班の話し合い ワークショップ	未来のまちづくりには何が必要かを考える。	他者の意見から、持続可能なまちとは何か話し合いの中から、考えを深める。	ワークシートに意見を書き込み、班員相互で比較、検討し、合意形成を図る。	積極的に参加意見 の吟味、考察	
1	原稿を持ち寄り、模造紙にまとめる。 自分たちの理想のまちとは？	まちの特徴をとらえ、班のまちを作り上げていく。	友の意見を取り入れ、違いを見い出し、まちをつくりあげていく。	まちづくりの要素にSDGs達成の必要性を見いだす。	批判的な思考力 協力する態度	
1	発表	班で作り上げた未来のまちを吟味し、皆で共有する。	発表することで自分の考えを改めて構築する。	発表後の評価を受けて、修正案を考える。	未来を予測する力	

（2）2学年教師たちによる評価

生徒たちは、班で課題と役割を決め、地域や行政の方と一緒に活動し、互いの防災への考えを交換し、共有することができた。

「まちなか点検」を通して、地域における役割意識が高まり、身近な地域を防災まちづくりの視点で再確認することができたと思える。

発展学習として行った「持続可能なまちづくり」では、生徒は、インフラ整備だけではなく、エネルギー、環境、国際理解、防災、経済摩擦、人権、労働条件、少子化、男女平等等の課題を挙げ、それらの課題解決を包括する社会体制、新たな生活スタイルに沿ったまちの在り方を考えるなど、地球的規模の問題を解決するための方策を考えていた。

年度末の学習成果発表会でも、「SDGsに関わってきた『総合的な学習の時間』での学びは、未来社会に通じるもの」との生徒発表があった。

SDGsが、生徒の意識の中に定着しつつある。

Ⅵ まとめ

大森第六中学校では、毎年生徒対象の「ESDアンケート」を次の20項目で実施している。

この設問は、『学校における持続可能な発展のための教育(ESD)に関する研究 最終報告書』(国立教育政策研究所2012)にある「ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度」に沿った内容(①批判的に考える力【批判的】、②未来を予測して計画を立てる力【予測】、③多面的・総合的に考える力【多面的】、④コミュニケーションを行う力【コミュニケーション】、⑤他者と協力する態度【協力】、⑥つながりを尊重する態度【つながり】、⑦進んで参加する態度【参加】)で準備をしている。

- 1 他者の考えと自分の考えが違うとき、前向きな別の案を考え説明することができる。【多面的】
- 2 友が誤った行動をとろうとしたとき、間違えている点をやさしく指摘することができる。【批判的】
- 3 集団で活動する計画を立てるとき、他者の意見を聞いて協力しながら計画を立てることができる。【協力】

4 起こりうることを想定し、危険を察知して、事故やトラブルを免れることができる。【予測】

5 いろいろな人の考え方や社会との関わり、自然とのつながりなどを考えて、自分の今の行動を見直す行動ができる。【つながり】

6 自分の価値観と違う人とも、違いを理解して話し合うことができる。【多面的】

7 他者の気持ちや考えを尊重し、自分から積極的にコミュニケーションをとることができる。【コミュニケーション】

8 自分が意見を言うことで、問題を解決することができる。【参加】

9 他者と協力・協働して物事を進めることができる。【協力】

10 集団や社会における自分の発言や行動に責任を持ち、人との約束は必ず守ることができる。【協力】

11 集団における自分の役割を理解し、物事に主体的に参加することができる。【参加】

12 テレビやインターネットなどで報道されることはいつも正しい情報であると思う。【批判的】(反転項目)

13 友と意見が食い違うとき、自分の意見を押し通すほうだと思う。【多面的】(反転項目)

14 将来どうなるかを予想するために現在の自分の行動を見直すことが大切であると思う。【予測】

15 自分の生活には、他者の考えや社会の仕組み、自然環境が必ず関わっていると思う。【つながり】

16 自分の考えを伝えたり、他者の考えをよく聞いて、自分の考えに人の考えを取り入れていくことは大切なことだと思う。【コミュニケーション】

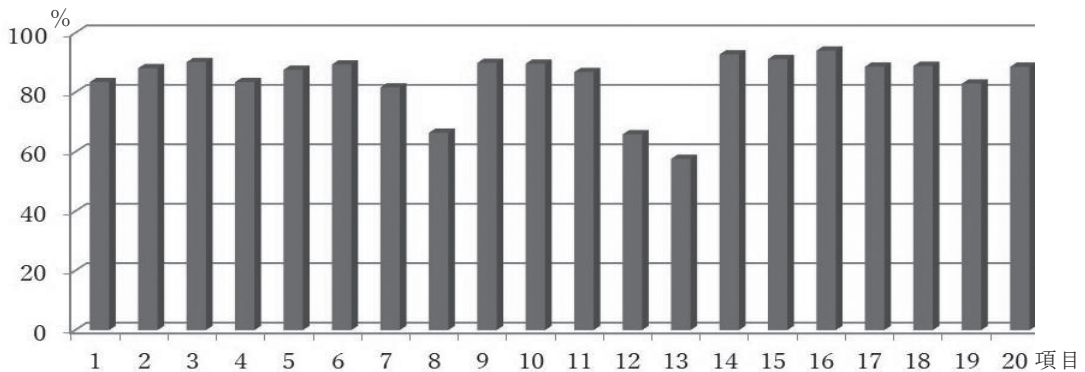
17 様々な価値観を持つ他者の立場に立ち、他者の考えに共感した「交流」が大切で、他者と協力し、人の役に立つことをうれしく思う。【多面的】

18 自分が生活するうえで、多くの人や地域、社会、文化、自然とのつながりを持ちたいと思う。【つながり】

19 地域でボランティアに参加し、地域とつながりをもちたいと思う。【つながり】

20 自分が今生活できているのは、今までの伝統や地域の文化、他の人や自然のおかげであると思う。【つながり】

図 大森第六中学校「ESD アンケート」の結果（全校生徒の肯定的な回答の割合、2018年）



回答は「そう思う」、「ややそう思う」、「あまり思わない」、「思わない」の4件法で求めている。結果は、17項目で80%以上の肯定的回答率を得ている(図参照)。

このアンケートの結果からは、「総合的な学習の時間」を中心としたESDの推進と「単元指導過程」の工夫による授業改善は、生徒の持続可能な社会の担い手としての【つながり】、【協力】、【コミュニケーション】、【予測】といった姿勢・態度の形成に効果を有していることが推測できる。

今後は、「総合的な学習の時間」を中心としたESDの実践をさらに工夫し、持続可能な社会創りに積極的に【参加】する姿勢・態度を生徒に養わせることが課題である。

最後に、本稿における教育実践の推進力となった大森第六中学校の教職員に心より感謝の意を捧げる。

【引用文献】

文部科学省, 2017, 「中学校学習指導要領」
 「国連持続可能な開発のための10年」関係省庁連絡
 会議, 2006, 「我が国における『国連持続可
 能な開発のための教育の10年』実施計画」
 国立教育政策研究所, 2012, 『学校における持続可
 能な発展のための教育 (ESD) に関する研究
 最終報告書』
 今井文男・成田喜一郎, 2016, 「カリキュラムデザ
 インのための『曼荼羅 Mandala シート』の開
 発と実践」

【参考文献】

荒木紀幸編著, 2001, 『総合的な学習で育てる知識・
 能力・態度－教育心理学による解明－』明治
 図書
 小玉敏也・金馬国晴・岩本泰編著, 2020, 『SDGs
 と学校教育 総合的な学習 / 探究の時間－持
 続可能な未来の創造と探究－』角川書店

